

2日目 10/25 日 10:00~16:00

2020 秋田市 × a.woman MATUSHITA Marché

松下マルシェ

秋田の働く女性たちの情報サイト「a.woman」との共催。
女性起業家や女性が開発した製品の紹介・販売、関係企業・団体のPR等。



女性も男性も 活躍推進!

in 松下



1F

オジモンカメラ
「オジモン写真館」

VIVANT MAKE UP WORKS
「メイク&アドバイス」

Nail concierge 「ネイル体験」





屋外

庭沐 (にわぼく)

botanico

greenpiece





2F

ホテルビ堂

小さな焼き菓子屋 プチポヌール

あいば商店

のらりくらり

マルタペーカリー

種と実

ふくまる堂

Glass Jewelry grain

アロマテラピーショップ Pfré

陶芸工房ももねり。

h.u.g













女性も男性も活躍推進シンポジウム 2020 報告書

日時：10月24日(土)・25日(日)
会場：あきた文化産業施設「松下」



新型コロナウイルス予防対策を徹底しながら開催しました。



秋田市 市民生活部 生活総務課 女性活躍推進担当
TEL.018-888-5650 FAX.018-888-5651 Email danjyo@city.akita.akita.jp

2020年10月

秋田市

セミナー 朝の部 | 8:00 ~ 9:30

朝ヨガとマインドフルネス

講師 ヨガスタジオ「スロウフロウ」相場 良子さん

●基本の呼吸法で集中力と行動力をアップ!
朝の静かな大広間に講師の相場さんの声が心地良く響きます。参加者の皆さんは、日常から離れて心身ともにリラックスした様子でした。1日の始まりにマインドフルネスの呼吸法を今後も取り入れたいとの声がありました。



トーク 午後の部 | 13:30 ~ 15:00

思いをカタチに ~私のストーリー~

自家製野菜のキッシュ・洋菓子工房「ホテルビ堂」

吉岡 千恵さん

コーディネーター

フリーアナウンサー 武藤 綾子さん



私自身が毎日を楽しんで生きることの副産物として生まれたものです。無理に頑張るのではなく地道に少しずつやってきたら、こうして皆さんに知っていただけるようになりました。始めた当初は今のよう状況になると夢にも思いませんでしたが、これまで出会ってきた人のご縁を大事にしてきた結果なのかなと思っています。

過去を振り返ると、小さい頃から4人兄弟の長女としてしっかりしなければという気持ちがあった反面、色々なコンプレックスを強く持っていたのですが、自分を認めてくれる夫と出会ったことで、いいところも悪いところも全部の自分を認め、一歩踏み出して行動できるようになりました。自分が必要とされること、人に喜んでもらうことがとても嬉しいと感じるので、今はホテルビ堂でお菓子を作って販売することが生きがいのひとつです。でもお菓子に限らず、人に喜んでもらえることだったら何でもしたいと思っています。



自分が幸せじゃないと周りを幸せにすることはできないからこそ、自分自身を大切に人生を生きていきたい。もっと自分のことを好きになるためにも、お菓子だけではなく興味のあることなんでも挑戦して、どんどん新しい自分になっていきたいです。



セミナー 午前の部 | 10:30 ~ 12:00

未来を描く☆キャリアデザイントーク

進行役 異業種女性の活動団体「ワーキングこまち」

●女性の社会人を対象に、イキイキと働き続けるため、参加者同士が話し合いながらシミュレーションをしました。これからの自分に希望がもてたとの声がありました。



ワーキングこまち参加企業
秋田県警察本部、NTT東日本秋田支店、JR東日本秋田支社、東北電力、ドコモCS東北秋田支店、ゆうちょ銀行



トーク 夕方の部 | 16:30 ~ 18:00

これからの働き方、暮らし方



クラフトビール醸造所「BREWCCOLY」代表

筒井 智成さん

「あくび建築事務所」代表

筒井 友香さん

コーディネーター

NPO法人アーツセンターあきた 田村 剛さん

智成さん: 私が営んでいる醸造所、「BREWCCOLY(ブリュッコーリ)」は発酵用のピアタンクが3基と、国内でもすごく小さく、マイクロブルワリーと呼ばれるコンパクトな形態です。まちの中に溶け込むブルワリーを目指しています。



友香さん: 「あくび建築事務所」という設計デザイン事務所で、住宅と店舗の改装・リノベーションをメインとした業務をしています。新築案件もありますが、基本的にはリノベーションを普及させていきたいと思って活動しています。

智成さん: 以前は僕も妻と同じ建築の仕事をしていました。ビール屋になりたいと思うようになったのは、20代の後半。当時勤めていた設計事務所で、かなりハードでタフな働き方をしていたので、この仕事を40代、50代までやっていくことにリアリティがないと思ってしまいました。

30代を目前に何か変えようと思い始めていた頃、何となく手に取った雑誌に逗子で醸造所をやっている方が紹介されていたんです。見てみたいという気持ちで実際に行ってみたら、逗子のまちのコミュニティにその醸造所がしっかりと溶け込んでいた。それぞれが歯車として回って、まち全体が動いているパワーを感じたんです。それがとても素敵だと思い、気づいたら自分も「ビールをやりたい」と口から出ていました。

友香さん: 私は当時東京のリノベーション専門の会社に勤務していて、そこでリノベーションに取り憑かれた感じです。いずれは秋田に帰ろうと思っていましたが、そのタイミングは決めていなくて。まだもうちょっと東京で勉強したい気持ちがあったし、彼もちょうどビールをやりたいと考えていた時期だったので、2年くらいをお互い勉強をする準備期間にして、秋田に帰ってきました。



智成さん: 独立して、1番良かったのは自分の生活・時間を自分でコントロールできていることだと感じています。

友香さん: 私もストレスフリーではあると思います。休みは全然なくて疲れることはあっても、精神的負担はないですね。

智成さん: 建築の仕事をしていた頃から独立心が強かったのでも、起業するのは自然な流れでした。建築から今に繋がっていることは、自分がどんなことをしたらまちが面白くなるかという発想です。自分が仕事

することで、まちへプラスの影響をどう与えていけるのかという視点が根底にありました。そこでなぜビール屋なのかというと、ビールを好きだったのもありますが、職人への憧れもありました。まちづくり、職人というキーワードが重なり、自分の好きなビールという形に昇華されたのだと思います。



友香さん: 二人でそれぞれ独立して仕事をする中で、私がダブルルーム(週末に参加しているシェア飲食店)のホール係をしたり、彼にプランを一緒に考えてもらったりすることがあります。それぞれの仕事は交差して、二つの仕事になっているのかなと思っています。

智成さん: 僕は建築で独立したいと思っていたので、手伝わせてもらって両方手に入れたような気持ちです。秋田は都市に比べて隙間がいっぱいある。その分、この先もっと面白く豊かになっていけるので、個々の人がより地域に関心を持つことで、興味のあるものやできることを見つけていくことが、これからの秋田の可能性を広げるのかなと思います。



女性活躍企業・団体 PR コーナー

女性の活躍を推進するイクボス企業パネル、秋田大学男女共同参画推進室ほか、PRコーナーを設置しました。

